

## インターンシップを終えて

慶應義塾大学薬学部薬科学科 4年 中沢信吾

(配属先：非対称細胞分裂研究グループ)

この5日間の体験は忘れられないものになりました。ここまで毎日が楽しく、ワクワクし、終わって欲しくないと思えたイベントは本当に初めてでした。

マウスの胎児を用いた実験は学部生で体験出来るものではなかなかありません。神経幹細胞について事前に予習をして臨みましたが、それでもわからないことは多くありました。教科書の内容は既に古く間違っていることもありました。研究員の方々は私の疑問・質問にも全て答えて下さり、神経幹細胞はなんと面白い分野なのだろうと思う一方で明らかでないことを明らかにする難しさも知り、研究に対する向き合い方を少しですが学ぶことが出来たように思います。

しかし私が最も有意義だったと感じているのは、実験以外のところで理研の皆様や他の学生と会話した時間です。配属となった研究室以外にも、懇親会やオープンラボなどで様々な分野に携わっておられる方々のお話をお聞きし、発生科学の内容だけでなく研究者を目指すとはどういうことなのか改めて考える機会となりました。そして何よりも、同じ志を持った同年代の友人と出会えたこと、話し合えたことはとても面白く、刺激的で、勇気づけられました。彼らとは今後も良い関係を続け、日本の科学の継承・発展に共に携わっていけることを望んでいます。

本当にたくさん学び、考え、楽しんだ5日間でした。今回のインターンシップが私の人生のひとつのターニングポイントになることは間違いないでしょう。しかしまだまだ学ぶことは多く、気を抜いている暇はありません。このインターンシップを企画して下さいましたこと、参加させて頂けましたことに深く感謝しております。本当にありがとうございました。次は研究者として研究に関われますよう、これからも努力して行きたいと思います。



研究発表会での中沢さん